

4 単元の計画(全11時間)

次	時	学 習 活 動	資質・能力育成のための支援 課 課題解決能力見見通し共共感性	評 価 規 準
一	1	「かきが13こなっています。9ことるとなんこのこりますか。」の式を立て、計算の仕方を数図ブロックを使って考える。	課 ひきざんマンからの挑戦状を提示することで興味付けをする。 課 見 情景図を見て自由に話し合せてから問題文を提示する。  課 今までに習ったひき算とのちがい(繰り下がり)を一の位に注目して見つけさせる。	【考】減加法又は減々法で考えることができる。(2組)  【考】減加法のよさを考えることができる。(1組)
	2	11-8, 15-9の計算を数図ブロックを使って考える。		【表】繰り下がりのあるひき算を計算することができる。
	3	「ぱんが12こあります。7ことりました。なんこのこっていますか。」の式を立て、計算の仕方を数図ブロックを使って考える。	見 困っている児童にはヒントコーナーで具体物(数図ブロック)やヒントカードを使うように知らせる。  共 いろいろな方法を出し合って比べることにより、より簡潔、明瞭な方法を見出せるようにする。	【表】計算方法を唱えながら、暗算で答えを求めることができる。
	4	「たまいれをしました。どちらのほうがなんこおおいですか。」の式を立て、「 $\quad$ の方が こんおおい。」を考える。	見 算数コーナーの「ちがいはいくつ」の掲示を振り返らせることにより、ひき算でできそうだという見通しをもたせる。  課 自力解決できない児童には、スペースで実際に玉入れの玉を操作させ、理解させるようにする。	【考】【知】10より大きな数でも、違いを求めるときには、ひき算をすればよいことが分かる。
	5	「おかしが13こあります。4こたべるとのこりはなんこですか。」の式を立て、計算の仕方を考える。	課 前時までの計算と比較し減数を小さくした場合について考えようという意識をもたせる。	【表】減数が5以下のひき算を減加法や減々法で計算することができる。
二	6, 9	ひき算のカードを使って、繰り返し練習をする。	課 自分のめあてに向かって練習問題ができるようにする。	【表】繰り下がりのあるひき算が確実にできる。  【表】たし算とひき算の計算に習熟する。
三	10	たしかめどうじょうをし、学習内容の自己評価を行う。	課 問題を解いて、自分に合ったコースを自己選択できるようにする。	【関】繰り下がりのあるひき算を身近な問題に用いようとする。
	11	《補充》繰り下がりのあるひき算を、減加法や減々法で解く。  《発展》答えが3になるひき算を考える。 ＜習熟度別少人数＞	共 同じ課題で学習する友達の考え方にふれ、よりよい解決方法を見つけれられるようにする。	【考】被減数を10と何に分けることができるかを糸口として、繰り下がりのあるひき算ができる。  【考】答えが3になるひき算の式から、その規則性に気付く、答えが同じになる他の式を探することができる。